

パウダーコーティング

2026年夏季号

Vol.26 No.3



パウダーコーティング

2026 年夏季号

持続可能な社会の実現を目指す SDGs (14).....	7
	奴間 伸茂
トピックス	
中東情勢の悪化による塗料関係に対する影響	10
	立花 敏行
＜組合だより他＞	
お知らせ：「明日の工業塗装を考える懇談会」にて前島副理事長が講演	20
「明日の工業塗装を考える懇談会」 チラシ	21
支部大交流懇親会開催のご案内	23
米国コンサルタント会社「Orr&Boss 社の 2030 年までの需要予測」	25
後付	27

編集委員会

編集委員長	柳田 建三（旭サナック株）
編集委員	桜井 智洋（コーティングメディア）
	八田 崇史（日本ペイント・インダストリアルコーティングス株）
	吉田 誠二（日本パーカラライジング株）
アドバイザー	福田 良介（IPCO）

掲載広告目次

株式会社ケット科学研究所	1
AGC 株式会社	2
久保孝ペイント株式会社	3
グラコ株式会社	3
日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社	4
ロックペイント株式会社	4
ナトコ株式会社	5
旭サナック株式会社	6
一般財団法人日本エルピーガス機器検査協会	6
株式会社三王	15
株式会社板通	16
横浜化成株式会社	16
株式会社明希	17
城南コーテック株式会社	17
株式会社アック	17
筒井工業株式会社	18
大日本塗料株式会社	18
パーカーエンジニアリング株式会社	19

NEW 膜厚計 L-500

測定、統計、プリントアウト。
その場で完結。



N=	1	10.9	μm
N=	2	10.8	μm
N=	3	10.8	μm
N=	4	11.3	μm
N=	5	10.9	μm
N=	6	10.9	μm
N=	7	11.1	μm
N=	8	11.2	μm
N=			
N=			

BLOCK RESULT			
BLOCK	025		
Total	N	20	
Avg.		49.0	μm
S.D.		0.3	μm
Max.		49.6	μm
Min.		48.4	μm

■ 印字例

測定結果や統計計算結果を即時に印刷できます。



■ 測定例

手持ちでも平置きでも測定しやすい形状です。

- 高精度・多機能なプリンタ搭載器
- 検量線メモリと調整データ搭載の新型プローブ
- 調整方法などを対話形式で表示する大型ディスプレイ搭載
- 統計計算機能内蔵（ブロック統計・グループ統計／測定回数・平均値・標準偏差・最大値・最小値）
- 上下限アラーム、連続／ホールド測定ほか、多くの機能を搭載

スペック詳細や使い方動画などは、コチラ



株式会社ケット科学研究所

東京本社 〒143-8507 東京都大田区南馬込1-8-1

西日本支店／北海道営業所／東北営業所／東海営業所／九州営業所

URL: <https://www.kett.co.jp/> E-mail: sales@kett.co.jp

AGC

ECO

ここからはじまるECO
塗料用フッ素樹脂粉体
実績と信頼



AGC化学品カンパニー
AGC株式会社

100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング Tel 03-3218-5040 Fax 03-3218-7843 URL <http://www.lumiflon.com>

SINCE 1967

KING of Powder

NISSIN
Powder

国産初の
静電塗装用粉体塗料。
各種産業分野でいち早く
環境保護、省資源化に貢献。

ニッシン パウダー 粉体塗料カラーカードシステム

粉体色見本帳による
受注システム



豊富な塗色を常備在庫

ニッシン パウダー

(ソリッド色) 182色

ニッシン パウダーコートS

(特殊模様塗料) 20色

合計 202色

1カートン (15kg) よりオーダー OK

コンパクトで使いやすく、
模様見本を含め全色掲載

久保寿ペイント株式会社

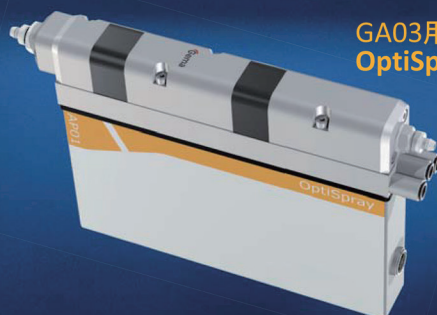
本社・工場：〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路3丁目15番27号 TEL (06) 6815-3111 FAX (06) 6323-5881
関東営業所 TEL (048) 660-1200 FAX (048) 660-1202 九州営業所 TEL (092) 411-7011 FAX (092) 411-7041
名古屋営業所 TEL (052) 261-1125 FAX (052) 261-1135 <http://www.kuboko.co.jp>



自動ガン OptiGun GA03



これまでに類のない驚異的な塗装性能
塗料の大幅削減を約束
際立った定量供給を実現
安定した塗装品質を提供
内面自動塗装の世界を変える



GA03用ポンプ
OptiSpray AP01

Gema



<http://www.gemapowdercoating.com>



グラコ 株式会社
ゲマ事業部

〒224-0025 横浜市中区早瀬1-27-12
TEL: 045-593-7335 / FAX: 045-593-7336



1 Kg からオーダーメイドできる粉体塗料

耐候性向上タイプ新発売！

超小口短納期調色粉体塗料

ビリューシア アルティ-カラー[®] アルファ

PERFORMANCE

- 1Kg から発注OK！
- オーダー色を短納期でお届け致します
(当社通常粉体塗料よりも短納期でお届けいたします)
- 粉体塗料を混合し
お好みの色に調色できます

QUALITY

- 超微粒子により塗膜外観に優れ、
美しい仕上がり肌が得られます
- 無溶剤で環境に優しい粉体塗料
RoHS 指令対応
- 耐候性に優れています
(ビリューシア アルティ-カラー対比)



日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

〒140-8675 東京都品川区南品川 4-1-15 TEL 03-3740-1130



工業用塗料

<http://nipponpaint-industrial.com/>

47ロック[®]

超美粧性粉体塗料

推奨用途

デスク

ロッカー

配電盤・
発電機

間仕切り

什器

照明機器
など

極めて
美粧性に優れた
艶消し外観

特に
鋼製家具用途に
適合

HAA系

ヤニレスで
炉の汚染が
極めて小さい

エネルギー
コスト
CO₂ 削減

ブリッジ抑制

付き回りに
優れる

オーバーベークしても
色差・光沢の
影響が小さい

超美粧性
粉体塗料

従来品

第3世代
HAA
粉体塗料

つや消し性と
高平滑性の両立



ロックペイント 株式会社

詳しい使用方法等については、最寄りの営業所へお問い合わせください。

東京営業部 / 〒136-0076 / 東京都江東区南砂2丁目37番2号
TEL (03)3640-6000 FAX (03)3640-9000
大阪営業部 / 〒555-0033 / 大阪市西淀川区姫島3丁目1番47号
TEL (06)6473-1650 FAX (06)6473-1000

ロックペイントのホームページ <http://www.rockpaint.co.jp>

エコな粉、ええコナ

粉体塗料

エコナ®

1 ケースからの少量・短納期を実現
特長ある品種

- 薄膜・高平滑タイプ
- 低温硬化タイプ
- ヤニ臭改善型（PRTR 法対応）
- 高耐候性タイプ
- 艶消しタイプ
- ファインレザータイプ、
レザーサテンタイプ
- エッジカバータイプ



ユニークな発想で新しい価値を創造する®

ナトコ株式会社

〒470-0213 愛知県みよし市打越町生賀山18

営業管理 TEL 0561-32-9651 FAX 0561-32-9652

支 店 中部(愛知)・東部(埼玉)・西部(大阪)・西南部(福岡)



デュアル電界方式静電粉体ハンドガンユニット

Eco Dual

AXR II-100DF・AXR II-100ST・AXR II-100FB
AXR II-200DF・AXR II-100ST・AXR II-100FB

新荷電方式＝デュアル電界方式
高い塗着効率と美粧仕上がりを両立

塗料使用量削減

塗料への帯電効率が高く、塗料使用量の削減、補正量の減少、産廃量の削減も期待できます。

仕上がり性向上

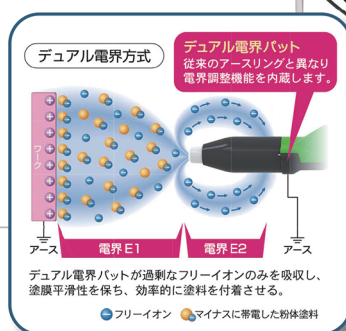
高い帯電効率を保ちながらフリーイオンの発生を抑え、平滑な仕上がり面が得られます。

作業時間の短縮

最大吐出量が約350g/minとなり、短時間でより多くの塗料を付着させることができ、作業効率が向上します。

塗料飛散抑制

新設計のインジェクタにより、従来よりも少ないエアで塗料を供給でき、吹き飛ばし等塗料の飛散を抑制します。



ECDm

豊富な
ノズルバリエーション
最適な条件で
使用可能！

ユニットバリエーション
で用途に合わせて選択できます

- ・部分流動タイプ
- ・攪拌ホッパタイプ
- ・流動タイプ

塗装FAシステム・機器の総合メーカー
旭サナック株式会社

本社・工場 愛知県尾張旭市旭前町5050番地
TEL (0561) 53-1213(代) 〒488-8688



「Eco Dual」および「Ec' Coater」は旭サナック株式会社の登録商標です。

SDGsやBCPへの対応もISO認証で

LIA-AC は、公平・公正・迅速・丁寧・

親切な審査を心がけています。

プライバシーマークは、個人情報の

保護や運用の状況が適切である

事業者の証です。



一般財団法人日本エルピーガス機器検査協会
ISO 審査センター (LIA-AC)

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-6 共栄火災ビル 7F
TEL 03-3580-3421 (直通) / 03-5512-7921 (代表)
<https://www.lia.or.jp/lia-ac/>

プライバシーマークの審査についてもご相談ください。



(14) 私にとっての SDGs —自動車塗装のカーボンニュートラルを考える会と歩んだ 4 年間—

仲間 伸茂^{*1}

1. はじめに —私にとっての「最重要 SDGs」

私は 2022 年春から、「自動車塗装の CN（カーボンニュートラル）を考える会」（以下、CN 研究会）と歩んできた。

CN 研究会は、トヨタ自動車をはじめとする日本の乗用車メーカー 8 社によって構成され、自動車塗装工程におけるカーボンニュートラル（CN）の実現を目指して、各社の枠を越えて議論を重ねてきた研究会である。この研究会が（一社）日本塗装技術協会に設置されたことから、私は協会を代表する立場で、その活動に参加することとなった。

メンバーの全員が自動車メーカーの技術者であるなか、私はただ一人、自動車メーカー以外の出身者であった。私は 1972 年から 2011 年まで塗料メーカーに勤務し、主として塗料用樹脂の研究・開発に携わってきた。その間、塗料の高性能化とともに、低 VOC 化、水性化、ハイソリッド化など、環境適合型塗料の開発にも取り組んできた。

その私にとって、CN 研究会への参加は単なる協会活動ではなかった。長年取り組んできた「塗料と環境」という課題を、今度は自動車塗装システム全体という、より大きな視点から考える機会となったのである。したがって私は、CN 研究会とともに考え、2050 年の CN 実現を目指すことを、「私にとっての最重要 SDGs」と位置づけてきた。

2026 年 6 月 26 日に開催された（一社）日本塗装技術協会 2026 年度第 1 回講演会は、CN 研究会が約 4 年間にわたって積み重ねてきた活動の一つの集大成であった。本稿では、その成果を振り返りながら、一人の塗料技術者として、この活動から何を学び、何を次世代に残したいと考えるに至ったかを記しておく。

2. 自動車塗装の CN は「塗料だけ」では達成できない

CN 研究会に参加して、私が改めて強く認識したことがある。それは、自動車塗装の CN は、塗料技術だけでは達成できないということである。

従来、塗料技術者は、塗膜性能、外観、耐久性、塗装作業性などを向上させながら、水性化や低 VOC 化を進めてきた。これはもちろん重要であり、今後も継続しなければならない。しかし、CN という視点から塗装工程を見ると、問題の構造はそれほど単純ではない。

塗装工場では、前処理、電着、中塗り、上塗り、乾燥、空調、ブース運転など、多くの工程でエネルギーが消費されている。特に塗装ブースの温湿度管理や乾燥炉には大量のエネルギーが必要である。したがって、塗料の CO₂ 排出量だけを減らしても、塗装システム全体として最適化されなければ、真の CN には到達できない。

ここに CN 研究会の大きな意義があった。研究会では、自動車メーカー各社が長年蓄積してきた経験や知見を持ち寄り、「どこでエネルギーを使っているのか」「何を変えれば CO₂ を減らせるのか」を工程横断的に検討した。つまり、塗料、塗装設備、工程、エネルギーを一つのシステムとして捉えることが、CN への出発点となったのである。これは私自身にとっても大きな発想の転換であった。

3. WG 活動が明らかにした CN への道筋

CN 研究会では、課題をいくつかのワーキンググループ（WG）に分け、具体的な検討を進めてきた。2026 年 6 月 26 日の講演会で報告された各 WG の成果を通して見えてきたのは、CN を実現するためには「一つの革新的技術」を待つのではなく、現在利用可能な技術を着実に積み上げながら、塗装システムそのものを変革していく必要があるということであった。

第一に重要なのは、塗装工場におけるエネルギー使用実態を正しく把握することである。CN を議論するためには、まず CO₂ 排出量を定量化しなければならない。どの工程がどれだけエネルギーを使用し、どこに削減余地があるのか。それを共通の尺度で「見える化」することが、メーカーの違いを越えて議論するための基盤となった。

第二は、乾燥・硬化工程の低温化、省エネルギー化である。自動車塗装では、塗膜形成のために複数回の加熱・乾燥工程が必要となる。したがって、焼付温度を下げる、乾燥時間を短縮する、さらには工程そのものを統合・削減することができれば、大きな CO₂ 削減につながる。ここでは塗料技術の役割が極めて大きい。低温硬化型樹脂・架橋技術、短時間硬化技術、ウェット・オン・ウェット工程などを発展させることにより、従来当然と考えられてきた乾燥工程を見直す可能性が生まれる。

第三は、塗装ブースおよび空調に要するエネルギーの削減である。塗装品質を安定させるためには温度・湿度・清浄度の管理が必要である。しかし、そのために大量の空気を処理し続ける現在のシステムは、CN

^{*1} 塗料塗装技術研究所 代表（元 関西ペイント）

の観点から見れば大きな改善対象でもある。ブースのコンパクト化、循環空気の活用、必要な場所だけを制御する局所空調など、設備側からの革新が不可欠である。

そして第四に、材料・工程・設備を個別に最適化するのではなく、全体最適として塗装システムを再設計することの重要性が示された。これはCN研究会が残した最も重要な考え方の一つであると私は考えている。

4. 「塗料技術者」の視点から見た CN

私は塗料用樹脂の研究者として長く仕事をしてきた。その経験からCN研究会の議論を見ると、塗料に求められる役割も大きく変わりつつあると感じる。

かつて塗料開発では、「より美しく」「より強く」「より長持ちする」塗膜を作ることが主要な目標であった。その後、環境問題への関心が高まり、水性化、低VOC化、ハイソリッド化などが重要なテーマとなった。そして現在、さらに新しい評価軸が加わった。その塗料を使用することによって、塗装工程全体のCO₂をどれだけ減らせるかという視点である。

例えば、塗料そのものの製造時CO₂排出量が多少増加したとしても、その塗料を用いることで焼付温度を大幅に下げられ、塗装工場全体のエネルギー消費を減らせるのであれば、システム全体では大きなCN効果を生み出す可能性がある。逆に、塗料単体では環境負荷が小さく見えても、塗装時に大量の空調エネルギーや乾燥エネルギーを必要とするなら、必ずしもCNに優れた塗料とは言えない。

ここに、これからの塗料開発に必要な発想がある。「塗料を開発する」のではなく、「塗装システムを成立させる材料を開発する」のである。私はこの考え方こそ、CN時代に塗料技術者が持つべき重要な視点ではないかと考えている。

5. 競争から「協調」へ

CN研究会の活動を振り返って、もう一つ強く感じることがある。それは、自動車メーカー8社が企業の壁を越えて同じ課題について議論したこと自体が、大きな成果であったということである。

自動車メーカー各社は、本来市場では厳しい競争関係にある。塗装技術も各社の品質や生産技術を支える重要な競争領域であり、その技術情報を共有することは決して容易ではない。しかし、CNは一企業だけで解決できる問題ではない。地球環境という共通課題に対しては、競争すべき領域と協調すべき領域を分ける必要がある。

エネルギー使用量の評価方法、CO₂排出量の考え方、CNに向けた技術課題などについて共通認識を形成することは、日本の自動車産業全体の競争力を高めることにもつながる。私は、この「競争と協調の両立」こそ、CN研究会が示したもう一つの重要な成果であると考えている。

さらに、この協調の輪は自動車メーカーだけで完結するものではない。塗料メーカー、設備メーカー、素

材メーカー、エネルギー関連企業、大学・研究機関などが加わり、産業横断的な連携へと発展させていく必要がある。(一社)日本塗装技術協会には、そのための「場」を提供する役割があると考えている。

6. 2050 年へ —技術者として次世代に伝えたいこと

2050年のCN実現までには、まだ多くの課題が残されている。再生可能エネルギーへの転換、電化、水素利用、塗装工程の抜本的簡素化、新しい塗膜形成技術など、これから解決しなければならない課題は多い。

しかし、CN研究会の約4年間の活動を通して、私は一つの確信を持つようになった。CNは、何か一つの画期的技術によって突然実現するものではない。現在の技術の一つひとつを改善し、それらを組み合わせ、さらに工程全体を見直していく。その地道な積み重ねの先に、初めてCNという大きな目標が見えてくる。

私は1972年以来、半世紀以上にわたって塗料技術に関わってきた。その間、塗料は大きく変わった。しかし、技術開発の本質は変わっていないと思う。現場をよく見ること。数字で事実を把握すること。既存の常識を疑うこと。異なる分野の技術者と議論すること。そして、次の世代により良い技術を残すこと。CN研究会の活動は、私に改めてそのことを教えてくれた。

若い技術者の皆さんには、CNを単なる「環境規制への対応」と考えてほしくない。CNは、自動車塗装という100年以上続いてきた生産技術を、根本から考え直す機会でもある。そこには、新しい塗料、新しい樹脂、新しい硬化技術、新しい塗装方法、新しい設備、そして私たちがまだ想像していない塗膜形成技術が生まれる余地がある。CNは制約ではなく、技術革新への挑戦なのである。

7. おわりに —私にとってのSDGs

2022年春にCN研究会と歩み始めてから約4年が経過した。自動車メーカーとは異なる立場から参加した私にとって、この研究会は、自らの技術者人生を振り返る貴重な機会にもなった。

1970年代から今日まで、私は塗料という材料を通して環境問題と向き合ってきた。VOC低減、水性化、省資源化、長寿命化——時代ごとに言葉は変わっても、その根底にあったものは、「より少ない環境負荷で、より大きな価値を生み出す」という技術者の使命であったと思う。そして、その延長線上にCNがある。

2050年、私はこの目標の到達点を見ることはできないかもしれない。しかし、技術とは、一人の技術者の人生の中だけで完成するものではない。先人から受け取った知識と経験に、自分たちの時代の成果を加え、それを次の世代へ渡していく。その連続によって技術は進歩する。私がCN研究会とともに考えてきたことも、その小さな一つであればよいと思っている。

2026年6月26日の講演会は、CN研究会にとって一つの節目であった。しかし、CNへの挑戦そのものが終わったわけではない。むしろ、ここからが本当の出発点である。

自動車メーカー、塗料メーカー、設備メーカー、素材メーカー、そして研究者・技術者が、それぞれの専門性を持ち寄りながら、2050年という共通の目標に向かって歩み続ける。その歩みのなかで、(一社)日本塗装技術協会が人と技術を結びつける場であり続けることを願っている。

そして私自身も、塗料技術者として培ってきた知識と経験を次世代に伝えながら、可能な限りこの歩みに加わり続けたい。それが、半世紀以上にわたって塗料技術に携わってきた私にとっての、「SDGs」なのである。

中東情勢の悪化による塗料関係に対する影響

立花 敏行*

中東情勢は依然として不安定であり、ホルムズ海峡の封鎖リスクにとどまらず、紅海のバブ・エル・マンデブ海峡においてもイエメンの親イラン武装組織フーシ派による封鎖の脅威が高まっています。これらは、原油やナフサ、石油製品、およびアルミ地金の供給を大きく中東に依存している我が国にとって深刻な問題であり、代替輸入先の検討は政府・産業界における喫緊の課題です。現在は米国からの輸入比率を高めるなどの対応が取られているものの、米国の戦略備蓄量も減少傾向にあり、今後の見通しは不透明な状況です。本稿では、米国産ナフサの比率が上昇した場合の影響や、塗料製造に不可欠なトルエン・キシレンの生産動向について考察いたしましたので、皆様にご報告いたします。

結論：実際に国内のTX（トルエン・キシレン）生産量は2025年の月平均を下回っており、今後米国産ナフサのクラッキング量が増加すれば、シンナーなどの需給タイト化が一層進むと推測されます。この影響は粉体塗料にも及ぶ可能性があります。粉体塗料で最も多く使用されるポリエステル樹脂は、プロピレンやキシレン（パラキシレン、メタキシレン）を出発原料としているため、米国産ナフサの導入拡大は原料不足に直結するからです。一方で、アクリル樹脂塗料はエチレンを出発原料とするため、需給が緩和する方向に向かう可能性があります。しかし、希釈用シンナーの動向を考慮すると、塗料業界全体の調達環境としては厳しい状況が続く見込みです。現在の中東情勢による物流混乱がこの米国産シフトの背景にあるため、一刻も早いホルムズ海峡およびバブ・エル・マンデブ海峡の安全航行が確保されることが、根本的な解決には不可欠といえます。

状況：皆様も報道でご存知の通り、ホルムズ海峡だけでなく紅海のバブ・エル・マンデブ海峡までがイエメンのフーシ派により封鎖の危機に瀕しており、通行料徴収の報道も出ています。この2つの海峡が封鎖されると、日本のエネルギーや化学産業は供給を断たれ、非常に厳しい状況に追い込まれます。国家間の対応は政府に委ねるとしても、民間企業として直近の主要原料の動きを注視しておくことは重要です。少しでも

現状を分かりやすく可視化するため、政府統計や諸団体の公開資料を基に、最新の需給動向をまとめました。

資料1：ナフサの価格動向です。

1. 国産ナフサ価格の決定仕組みは以下の通りです。
国産ナフサ価格は、財務省発表の輸入価格（CIF：Cost Insurance Freight）をベースに算出されます。具体的には、1KLあたりのCIF価格（円換算）の3ヶ月平均に、諸経費として2,000円/KLを加算したものが「国産ナフサ基準価格」として公表されます。なお、実際の公表価格は、比重や為替による微調整が行われたものとなります。

2. 誘導品・塗料製品への価格反映にはタイムラグがありますが、この国産ナフサ価格に連動し、国内で生産される石油化学誘導品は価格交渉が行われます。

ナフサ値上がり時：誘導品メーカーより値上げの打ち出し、

ナフサ値下がり時：購入企業（ユーザー）側より値下げの要求

それぞれの要求は市場環境を見極めたタイミングで実施されますが、概ね同時期になるケースが大半です。

なお、ナフサ価格の変動が川下の誘導品・塗料製品へ反映されるまでには、概ね3ヶ月程度のタイムラグがあるとされています。

3. 直近（2026年）の動向と今後の見通し（私見）
現在、最も重大な局面を迎えているのが足元の価格急騰です。

・2026年1月-3月期：65,700円/KL

・2026年4月-6月期：118,900円/KL（約1.8倍に急騰）

この歴史的な大幅上昇は、石化製品メーカーの企業努力だけで吸収できるレベルを遙かに超えています。そのため、早晩、誘導品メーカーから塗料メーカーに対して価格改定（値上げ）の要求が入ることは確実です。同様に、塗料メーカー側もこのコスト増を吸収することは不可能なため、最終製品への価格改定を要求せざるを得ない状況になると考えられます。また、続く7月-9月期についても10万円/KLを超える高値圏が維持される見通しであるため、お盆明けから9月にかけて、サプライチェーン全体で本格的な価格改定の要求が本格化するものと予想しています。

（※上記の見通しは、あくまで現在の市場デー

* 日本パウダーコーティング協同組合 事務局

タに基づく私見であり、今後の市場環境によって変動する可能性があります。)

資料2：ナフサ分留比率と川中製品への影響

中東よりのナフサの輸入が大幅に減少しており、2026年5月の輸入実績は以下の通りで輸入総量は、1,431,463KLとなっている国別の比率順に国名を挙げています。

①米国	34.86%
②アルジェリア	18.64
③UAE	9.26
④ペルー	6.98
⑤スペイン	5.78
⑥インド	5.03
⑦オーストラリア	3.55
⑧ポルトガル	3.50
⑨イタリア	3.44
⑩シンガポール	2.48
⑪オランダ	2.41
⑫タイ	1.06
⑬韓国	0.60

一方、2025年の通期実績では、①中東：70%、②韓国：9%、③ペルー：7%、④米国：5%、⑤インド：3%、⑥タイ：1%となっていました。

この比較から、足元では米国からの輸入比率が際立って急増している状況が伺えます。

しかし、米国産ナフサの比率上昇にはメリットがある反面、デメリットも大きいのが現状です。

資料2に概略を記載した通り、結論として、米国産ナフサへのシフトは、塗料に不可欠なトルエン (T)、キシレン (X)、および芳香族系の高沸点溶剤の収率 (生産量) を減少させる傾向にあります。また、ナフサ分留の負荷軽減を目的としているかは不明ですが、近年はエチレンとしての直接輸入も行われている模様です。ただし、エチレンはガスであるため、マイナス 100℃ 以下の状態を維持できる特殊な液化ガス運搬船 (タンカー) が必要です。

当然、運送代や保険料は原油・ナフサの輸送よりも高くなり、コストアップ要因となります。さらに、この方法では BTX やプロピレン、その他の重質成分が一切得られません。

以上のことから、TX や芳香族系高沸点溶剤やプロピレン誘導品溶剤を多く使用する「焼付塗装」の分野においては、今後も溶剤の需給タイト感が継続する可能性が高いと考えています。

資料3：トルエン・キシレンの生産動向

石油化学工業協会が発表する生産実績数字の中にトルエン (T) およびキシレン (X) があり溶剤としての使用も多いので、この2品目について実績を追ってみました。また、日本芳香族工業会の公開資料の中にはTXの輸出入の数字も見つけたので合わせて一表にまとめました。

2025年1月-12月の月平均のトルエン、キシレンの生産量は以下の通りで、日本石油化学協会により6月分までの生産量が公開されています。

トルエン：91.7KT/月、キシレン：305.2KT/月でした。中東情勢の悪化が始まった直後の2026年3月の生産量は、トルエン：74.1KT (前年月平均比 80.8%)、キシレンは 278.4KT (前年月平均比 91.2%) です。

4月には影響が出て、トルエン：59.4KT、(前年月平均比 64.8%) キシレン：213.4KT (前年月平均比 69.9%)、5月には備蓄原油の放出や代替調達先からの入船もあり若干回復し、トルエン：72.0KT (前年月平均比 78.5%)、キシレン：245.0KT (前年月平均比 80.3%) となっています。

6月は米国からの調達ナフサも増えたこともあり、トルエン：77.1KT (前年月平均比 84.1%)、キシレン：254.0KT (前年月平均比 83.2%) となっています。

まだまだ需給のタイト感を脱するほどの量には至っていない模様です。

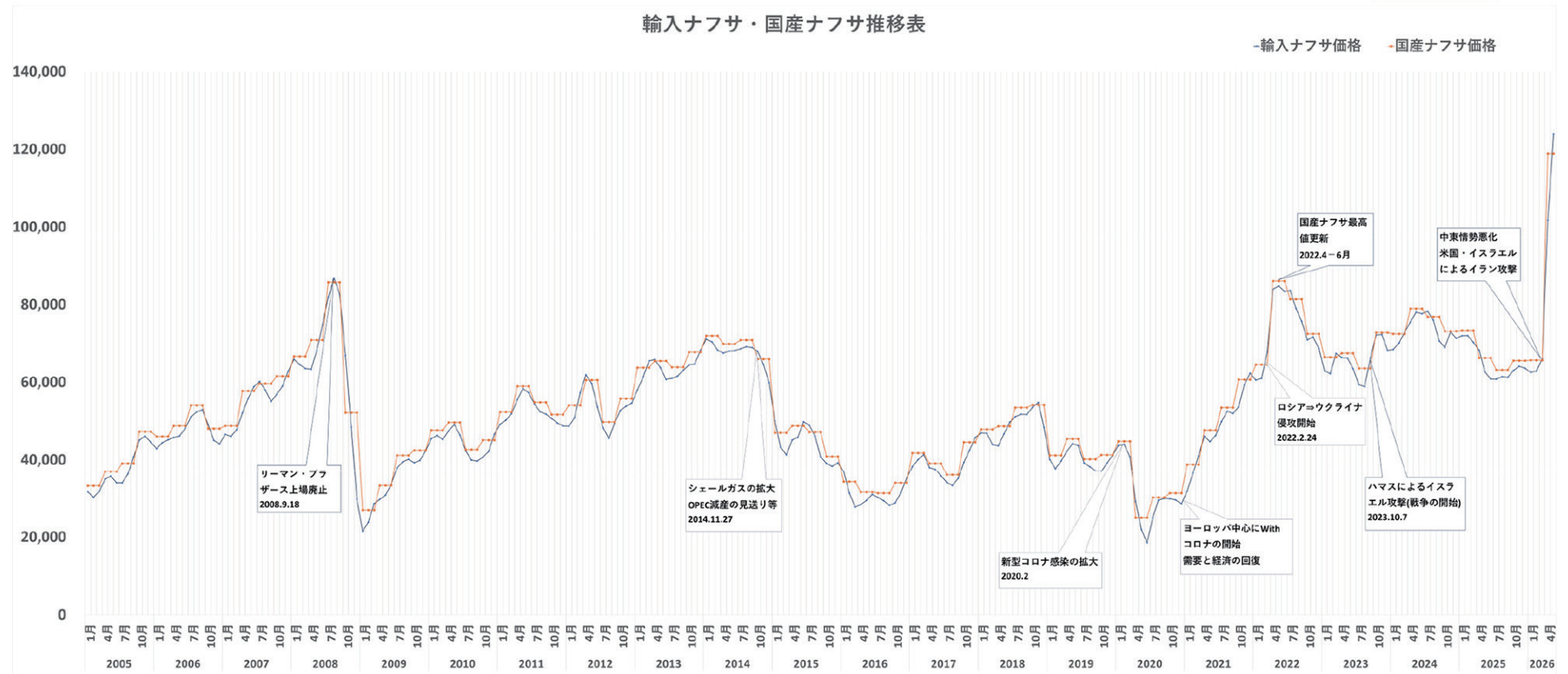
一方で日本芳香族工業会は月次でTXの輸出入量を公開しています。

3月以降の輸出入量は、表にプロットしております。但し、過去の実績については、資料3の2月以前がブランクとなっていますが、HP上では公開されておらず、数字が入手出来ていません。同製品の輸出入は生産とは異なる要因 (契約等) で決まっている感があります。

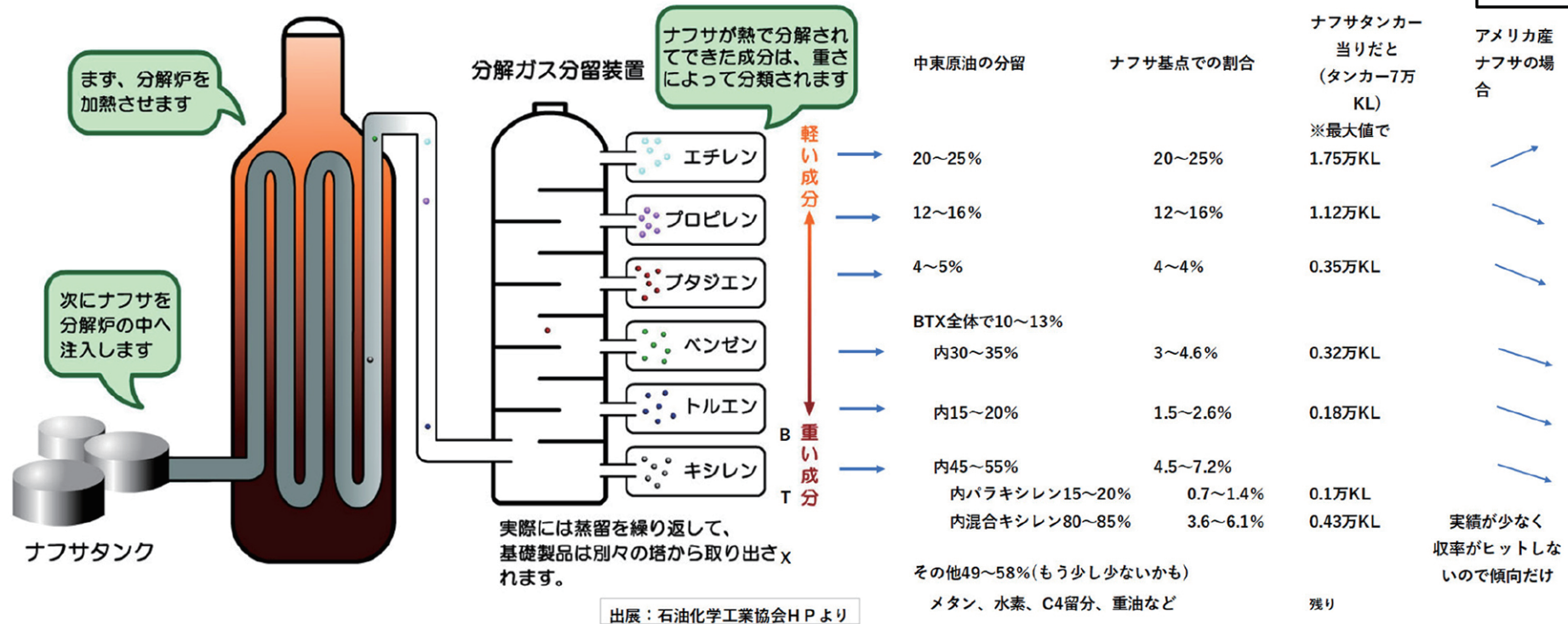
いずれにしても、6月までのTXの生産量は昨年を割り込んでおり、それを補うほどの輸入があるわけでも無い上に、ナフサの代替輸入先の品質差に伴うプロピレンや芳香族系の減量により、需給のタイト感は継続するものと考えてのが自然だと思います。輸入ナフサ価格から計算される国産ナフサ価格は4月～6月、7月～9月ともそれ以前に比べ大幅な価格上昇にあり値上げの打ち出しは必至である状況です。

皆様におかれましては、現状をご理解いただき、調達のご判断の参考として本まとめをご活用いただければと思います。

資料 1



ナフサ分留比率と川中製品への影響



中東情勢の悪化による中東産の原油、ナフサがホルムズ海峡封鎖の状況で十分に確保できず、米国産のシェールオイル、シェールガスから得られナフサの調達が増えている現状、塗料関係への影響について少し考えてみました。

米国産ナフサの拡大は、BTXの需要のタイト感を助長すると思われます。

過去も実績も少なく国内のナフサクラッキング設備は中東原油に合わせたもので米国産の実績は少ないため分留の収率の検索でヒットしません。

米国産のナフサのクラッキング収率は、傾向ですがエチレン以外収率が落ちるようです。特に芳香族(BTX)の含有が少なくなることは心配です。

最近の状況では、ナフサ輸入からエチレン輸入も進めているようであるが、エチレンはガスであり液化輸送タンカーが必要になります。

液化ガスの運搬用のタンカーが必要でマイナス100℃以下の状態で運ばれます。

当然保険や運送代も原油やナフサを運搬するよりかかって来ますので、コストアップ要因となりますし、

BTXやプロピレンその他は得られません。

トルエン・キシレンの生産動向(石化協の月次主要石油化学製品生産実績についてより)

単位：1,000トン、%

資料 3

品目等	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2025合計	2025年平均
国内生産																				
トルエン	109.1	90.3	87.3	102.6	92.1	70.8	68.1	88.7	104.1	100.2	89.8	96.8	99.3	80.3	74.1	59.4	72.0	77.1	1099.9	91.7
前月比	+6	-17	-3	+18	-10	-23	-4	+30	+17	-4	-10	+8	+3	-19	-8	-20	+21	+7		
前年同月比	-3	-4	-5	+14	-13	-31	-30	-11	+2	-6	-14	-6	-9	-11	-15	-42	-22	+9		
キシレン	323.2	274.1	315.3	330.2	277.5	249.6	268.1	311	307	340.2	325.3	341.1	356.5	307.2	278.4	213.4	245.0	254.0	3662.6	305.2
前月比	-4	-23	+15	+4	-18	-10	+7	+16	-1	+11	-4	+5	+5	-14	-9	-28	+15	+4		
前年同月比	-17	-28	-13	-5	-19	-17	-2	+9	+5	+4	-6	+1	-0	+12	-12	-37	-12	+2		
輸出入																				
トルエン 輸入																0	8.6	6.9	—	
トルエン 輸出																67.8	0	2	4	
キシレン 輸入																0	0.6	0	—	
キシレン 輸出																12.9	0	55	19	

(一社)日本芳香族工業会ホームページでは、2026年として3月、4月、6月の数字のみ公開となつて

エチレンセクターの減産は3月10日前後から中旬に始めているため100%の影響としては、4月からと思われます。
昨年からのピークの半分強！

ガソリンには価格抑制のため補助金が交付されており、元売り各社は、減産の中でもガソリンの収率向上の対応で生産維持。エチレンセクターもトルエンをガソリンに添加用を維持し、結果的に塗料用は減産に繋がっているかも！？
トルエンの転嫁の情報もあるが、重質ナフサの接触分解による高芳香族化を行っているが、アメリカ産ナフサ使用では、芳香族が少なく別途添加が必要となり需要のシフトが起こるではないか！？

◎ トルエンの需要構造(AI検索なので若干信憑性に不安も)

- 塗材の製造・希釈用 30～40%
- ガソリン添加用 20～25% ※燃焼効率を上げるためオクタン価調整(ハイオク用)で添加する。
- その他化学原料(異性化用) 40～45% ※ベンゼンやキシレン、医薬品などの中間体製造に使用される。

◎ キシレンの生産に含まれるもの

オルト、メタ、パラの異性体単体(異性化用)の数字と溶剤用の混合の状態での生産量とが含まれていると考えます。
塗料・インキ等の製造・希釈用は需要の10%程度の様です。

◎ 5月の動向。

エチレンセクターの稼働率は若干の回復(67.3%⇒68.1%)が見られるものの70%を切るレベルで継続して低い。
石化協は、ナフサクラッカーの状況として情勢悪化前の状況に近づいているとしているものの、高価格ナフサのクラッキングによる高価格品の在庫を多く持たないようにしている。
その為、生産過多にならないレベルでの生産を維持している。稼働率としては80%前後と思われる。
トルエンの2025年の平均生産量91.7KTからすると21.5%減の状態であり需給の状態はタイトとなっていると考えられる。
キシレンについても2025年平均生産量305.2KTから245.0KTと19.7%減とトルエン同様にタイト感がある。
TXとも生産増となっているのは定修明けプラントの再稼働があったものの効果が考えられる。

◎ 輸入品数量について

(一社)日本芳香族工業会が公開しているB T X生産・需要実績の数字を使用しています。
輸入量も国内生産を補完できる量の確保には、つながっていないと思われます。
一方で輸出は継続して行われており3月は前年以上に輸出 12KT(確定値ではなくカッコつき)を行っており、「前年輸出は前年より増」と備考に記載があります。
さすがに4月はトルエンの輸出は0トンとなっていますが、キシレンは67KT(確定値ではなくカッコつき)が実施されているようです。
また、「前年定修拠点は増」と備考に記載があり供給量としても減の可能性が読み取れます。
5月はXの生産量が増えたものの海外輸出をこの状況で行っており、差し引くと4月より若干の改善程度。Tも生産量上がっているが昨年委の付き兵器よりはかなり少ない。

2026年8月10日

On demand powder coatings

conall®

コナール

環境にやさしい、小ロット短納期、オンデマンドオーダー粉体塗料・コナール

- 1 ケース **5kg** からの指定色を製造※
- 鮮鋭性・平滑性にすぐれ、美しい仕上がり
- ご希望の色を忠実に再現
- 短納期

用途に応じた、豊富なラインナップ

標準タイプ	スーパーコナール	FL フッ素	屋外用最高級グレード。最高ランクの耐候性を有するフッ素樹脂粉体塗料です。
	ハイパーコナール	FH フッ素ポリエステル	屋外用高級グレード。フッ素樹脂を使いコストパフォーマンスに優れた中間グレード。
	コナール	PK 高耐候ポリエステル	1 ランク上の屋外用。耐候性と付着性のバランスが取れた使いやすい粉体塗料です。
		PU ポリエステル	一般屋外用。平滑性に優れ艶有から 3 分艶有まで調整可能です。
		PH ポリエステル	一般屋外用低温型、160℃×20分での焼付が可能です。焼付時にヤニが出ません。
		HT エポキシポリエステル	一般屋内用。強靱で鮮鋭性に優れた塗膜です。
		HL エポキシポリエステル	一般屋内用低温型、150℃×20分での焼付が可能です。
意匠性タイプ	コナール	ウェーブ	意匠性凹凸模様。溶剤系では表現できない立体的な模様で、重厚感と高級感を演出します。
		メタリック	ボンディングタイプ。溶剤系とは違うメタリックで重厚感と高級感を演出し、塗装も容易です。
		スリックスエード	新たな色彩表現となめらかな感触で商品に新しい可能性を開きます。
	コナールトーン	ハンマートーン	ハンマートーン模様。溶剤系でも長く親しまれてきたハンマートーンです。模様再現性は溶剤に比較して容易です。
		リンクルトーン	リンクル模様。縮み、チリメン、リンクルなど溶剤系でも様々な名称で親しまれてきました。粉体の模様は溶剤と比較して緻密で均一になります。
		スネークトーン	スネーク模様。リンクルトーンに似ていますが、まさに蛇革です。色を工夫することで斬新なイメージを与えることができます。
		アンティークトーン	アンティーク模様。粉体塗料独特の模様です。アンティーク、バンビー、フラッシュトーン、ハンマートンなど様々な呼称で呼ばれています。
		キャンディトーン	カラークリヤー。発色・塗装作業性だけでなく塗膜性能にもこだわり、今までのカラークリヤーを凌駕します。
		テラトーン	テラコッタ調模様。南欧素焼風の模様も粉体塗料であれば 1 コートで再現できます。
	チョコナ	各種	ペットボトル入粉体塗料。即日出荷の 100 色カラーバリエーション。粉体塗料をより多くの人に、より多くのものに。1 本 330gx2 本入りでオンラインショップにて販売中。

※ コナールトーンなど一部の塗料を除きます。詳しくはお問い合わせください。

● 樹脂により艶の調整範囲が異なります。詳しくはお問い合わせください。 ● 模様系塗料は、塗装設備・機器の種類、膜厚、焼付条件などで模様の状態が変化することがあります。 ● メタリックは、塗装機器の種類、膜厚等により輝度やメタリック感が変わる場合があります。 ● キャンディトーンは下地が透ける塗料ですので、下地の状態や膜厚により表情が変わります。



塗料・塗装資材の総合商社
小ロット溶剤調色
小ロット粉体製造
塗装機器・設備のコーディネート

化学で人と自然の共生する明日へ



株式会社 三 王 粉体事業所
埼玉県草加市弁天 4-17-18
TEL: 048-931-2001
FAX: 048-931-2141
www.san-oh-web.co.jp
info@san-oh-web.co.jp

快適と信頼が
私たちの商品です。

表面処理の総合商社…



株式会社 **板通**

<http://www.itatsu.co.jp>

本社 〒326-0802 栃木県足利市旭町 553 TEL 0284(41)8181 FAX 0284(41)1250

本部 〒373-0015 群馬県太田市東新町 330 TEL 0276(25)8131 FAX 0276(25)8179

両毛支店/埼玉支店/高崎支店/小山支店/宇都宮支店/水戸支店/東北営業所
フィリピン/タイ/インドネシア/中国

横浜化成株式会社

本 社 ☎108-8388 東京都港区高輪2丁目21番43号 ☎03(5421)8266(大代)
大 阪 支 店 ☎530-0047 大阪市北区西天満5丁目1番9号 ☎06(6364)4981 (代)
千 葉 支 店 ☎263-0001 千葉市稲毛区長沼原町804番地 ☎043(259)2311 (代)
静 岡 営 業 所 ☎422-8067 静岡駿河区南町13番3号(TKビル) ☎054(282)5366 (代)

地球に優しい環境型塗装技術はこれからの優先課題です！！

地球環境に優しい次世代の塗装法 Powder Coating (粉体塗装)

「長さ 17.5m」「重量2.0t」最先端の生産環境におまかせください。

妥協を許さない信念で、高品質を保ち保ち続けます。

株式会社 明希

代表取締役会長 新井 かおる (薫) 代表取締役社長 新井 裕喜

〒675-1202 兵庫県加古川市八幡町野村字蟹草 616-44

TEL 079-438-2737 (代) FAX 079-438-2771 (代)

HP:<http://www.e-orca.net/~meiki/> Email:meiki_qa@e-orca.net



樹脂からマグネシウムまでをラインシステム化した多量生産方式を採用

新素材をコーティングする

粉体塗装

電着塗装

溶剤塗装

本 社 〒142-0063 東京都品川区荏原 6-17-16 ☎03(3787)0711(代)
上里工場 〒369-0315 埼玉県児玉郡上里町大字大御堂字長久保1450の37 ☎0495(34)0801(代)
児玉工場 〒367-0206 埼玉県本庄市児玉町共栄 800-9 ☎0495(72)6191(代)

ISO 9001・14001 登録企業

アックでは、塗料・塗装方法・設備・機器
の提供はもちろん、塗料専門商社と
しての経験と知識を活かして、皆様が
抱える問題に対し、環境時代に最適な
「アイデア」を提案します。

環境時代が求める
エコロジカル・
ペインティングへ



お客様に「信頼と満足」を

株式会社アック

www.a-c-c.co.jp

本社／名古屋市港区十一屋2-12 〒455-0831 TEL(052)381-5599

名古屋・小牧・三河・豊川・弥富・浜松・いわき・山口・東京

塗装会社が、
風土改革コンサル
はじめましたw！

自主的**考動**を育む製造業による働きがい改革

『T-CX』

ツツイ式 企業風土
トランスフォーメーション

自主的に考動できない…

連携できない…

やらされ感…、他人事…

離職が多い…、採用できない…



SDGs、DX、働き方改革をスムーズに運用する為には…

【自主的考動を育むアプローチ】が有効です。

聴く

問う

伝える

待つ

【お客様の声】

- ・社員だけに変化を強いていたことに気づいた。
- ・コーチがいることで実践できるようになった。
- ・ストレス無く、充実した経営ができるようになりました。
- ・家族との関係性も劇的に改善出来ました。

詳しくはT-CXチラシへ！



働きがい改革とわくわくSDGsと粉体塗装のバイオニア

筒井工業株式会社

素材の付加価値を向上する

地球にやさしい粉体塗料

V-PET
Series

高意匠性シリーズ 特殊模様粉体塗料

エポキシ/ポリエステル系

V-PET 特殊模様 サテン

落ち着いた高級感あるサテン調仕上げ

エポキシ/ポリエステル系

V-PET 特殊模様 リンクル

立体的な3分つやからグロスの凸凹模様仕上げ

パウダーフロンシリーズ ふっ素粉体塗料

ふっ素樹脂系

パウダーフロンCW

3分つや〜フルグロスまで光沢調整が可能

ふっ素樹脂系

パウダーフロンSELA

ふっ素樹脂とポリエステル樹脂の二層分離形

…彩りに優しさをそえて…
未来へつなぐ

大日本塗料株式会社

DNT
DAI NIPPON TORYO

お問い合わせは—
●大阪 ☎06-6266-3134 ●東京 ☎03-5710-4505
●小牧 ☎0568-76-5578 <https://www.dnt.co.jp/>
塗料相談室フリーダイヤル 0120-98-1716

粉体塗装のパイオニア。



独自のパルス制御で美しい仕上がりへ

新製品

Pulse Power 9000 シリーズ



Pulse Power9000S
塗料タンクモデル



Pulse Power9000TS
2丁取塗料タンクモデル



Pulse Power9000B
塗料箱モデル



Pulse Power9000TB
2丁取塗料箱モデル

東京営業 : 03-3278-4800
北関東営業所 : 028-662-7641

名古屋営業所 : 052-823-1751
大阪営業所 : 06-6386-6132

北陸出張所 : 0766-26-5131
九州営業所 : 093-631-7464



<組合だより>

お知らせ

「明日の工業塗装を考える懇談会」にて前島副理事長が講演

当組合の名古屋支部の支部活動の一環として実施しています、「明日の工業塗装を考える懇談会」の協賛事業において、当組合副理事長の前島様をご講演されます。

内容につきましては、チラシを添付しておきますので、ご興味のある方は是非ご参会いただければと存じます。また、同日夕刻より場所を名古屋市中区錦に場所を移し支部大交流懇親会も開催されますので奮ってご参会いただき、交流を呼び情報交換等を行っていただける機会も企画されています。よろしくお願いいたします。

以上

離職率 95%、 人手不足とやらされ感の暗黒会社を 人財が集うイキイキチームに 変容させた秘訣

主催 名古屋市工業研究所・中部塗装技術研究会・愛知県工業塗装協同組合
協賛 日本パウダーコーティング協同組合 名古屋支部・(公財)名古屋産業振興公社

講演概要

『離職率95%——崩壊寸前だった塗装工場はなぜ生まれ変わったのか』

現場社員から社長となった講師が実践した「働きがい改革」により、採用・定着・主体性・生産性が大きく向上しました。本講演では、人が自ずと生きる組織づくりの考え方と、社員の主体性と一体感を育む具体的な仕組みについてご講演いただきます。

皆様の多数のご参加をお待ちしております。

講師

筒井工業株式会社 代表取締役社長 前島 靖浩 氏

名古屋工業大学卒業後、技術職として1996年入社。

2017年に4代目代表に就任し、働きがい改革を手がける。改革ノウハウをベースにコンサル事業を立ち上げ、人財に課題を抱える企業のサポートを手がける。

LABプロファイル®マスターコンサルタント、NLPプロフェッショナルコーチ、マインドセットマップ™コーチの資格を持つ。

開催概要

日時：2026年10月27日（火）

14：40～15：50 講演

15：50～16：00 質疑応答

場所：名古屋市工業研究所 第1会議室（管理棟3階）

（地下鉄名港線、市バス、三重交通バスともに「六番町」下車、徒歩3分）

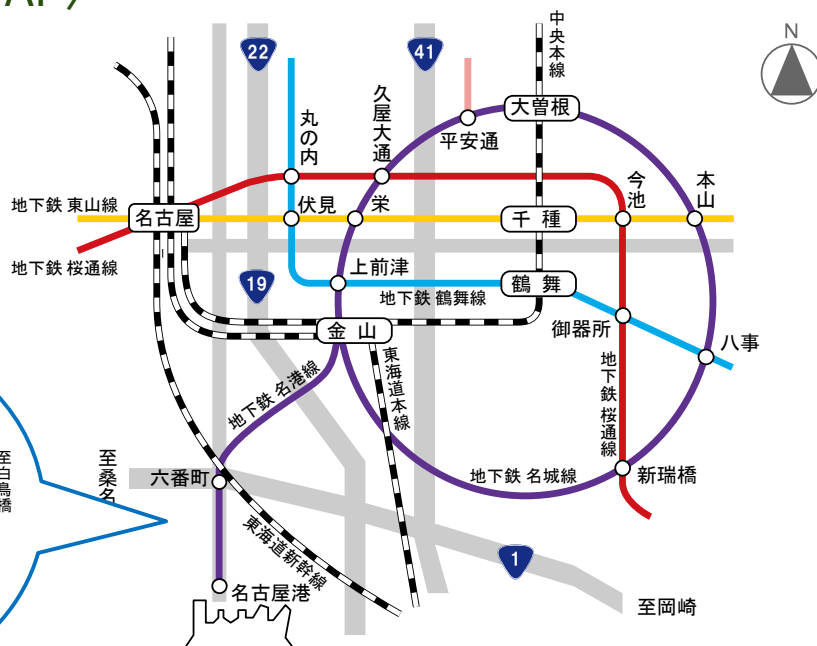
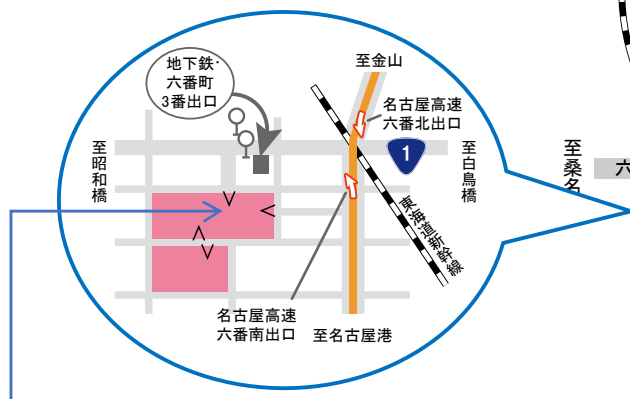
定員：70名（先着順）

参加費：無料

申込締切：10月19日（月）

お申込み・お問合せ先は裏面を参照ください

〈名古屋市工業研究所MAP〉



〒456-0058 名古屋市熱田区六番3-4-41 管理棟3F
会場はこちらの建物です

お申込み
お問合せ

必要事項を記入の上、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。
担当：名古屋市工業研究所 製品技術研究室 田中 優奈
F A X：052-654-6788
E-mail：tanaka.yuuna@nmiri.city.nagoya.jp

明日の工業塗装を考える懇談会 申込書

申込締切 令和8年10月19日

会社名			
所在地	〒		
参加者	所属		
	役職		
	氏名		
連絡先	TEL：	E-mail：	
○名古屋市工業研究所のメルマガジン登録 ご記入いただいたE-mailは、当所のメルマガ「NMIRI技術ニュース」に登録させていただきます。ものづくり企業のお役に立つ技術情報や当所主催のイベント情報などを毎月配信しております。メルマガ配信を「既に登録済みの方」、「希望しない方」は次に○をつけてください。 【 登録済み ・ 希望しない 】 メルマガには次からもご登録いただけます。 https://www.nmiri.city.nagoya.jp/mailmagazine/			



※ご記入いただいた個人情報は、本イベントの実施及びメルマガ等のイベント案内に限り使用し、主催者、事務局、講師以外の第三者への提供は一切行いません。参加証等の発行はいたしません。こちらからお断りの連絡がない限り、直接会場へお越しください。

組合員・賛助会員各位

事務局 ☎<052>381-5599

敬具

事務局 社本宛 FAX<052>383-5458

FAX番号＜052＞383－5458

日本パウダーコーティング協同組合名古屋支部

10月27日 支部大交流懇親会

参 加 申 込 書

下記のとおり申込致します。

2026年 月 日

会社名： _____

参加者

氏 名： _____

参加者

氏 名： _____

参加者

氏 名： _____

参加者

氏 名： _____

参加者

氏 名： _____

※中止連絡をする際の代表連絡先

氏 名： _____

連絡先番号： _____

米国コンサルタント会社「Orr&Boss 社の 2030 年までの需要予測」

日本パウダーコーティング協同組合 事務局 立花 敏行

本年も（一社）日本塗料工業会を通じ、米国の調査会社 Orr&Boss 社による世界主要国の需要予測を入手し、粉体塗料についての予測だけを抜き出してまとめました。同タイミングで配信された同社のニュースレターと、Google 翻訳を使った訳文も合わせて掲載いたします。

皆様の参考となれば幸いです。

本年の特徴としては、マイナス成長の国があることです。それらは主に先進国（G7 参加国）であり、日本も量的な成長はみられないものの、金額ベースでは原料高を反映して伸びを示すと予測されています。この予測から、今後の日本市場は成長性に乏しく価格が上がるという状況で、厳しさを増す可能性が高いと考えております。

当組合としても、引き続き皆様に役立つ情報発信に努めてまいります。

2026年版 Powder Coatig 世界需要見通し(地域別主要国別)

	2023		2024		2025		2026		2027		2028		2029		2030		2023⇒2030Growth		G7 国	G20 国	G7・ 20 国で 世界 >の 国
	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (KT)	Value (Millions of US Dollars)	Volume (%)	Value (%)			
Global	4,206.59	13,786.57	4,252.61	13,861.66	4,186.73	13,770.78	4,178.64	14,131.46	4,236.51	14,754.62	4,302.38	15,264.76	4,370.16	15,771.77	4,439.64	16,300.05	106%	118%			
North America	178.69	1,699.54	175.12	1,665.55	171.80	1,668.88	171.80	1,735.63	173.42	1,821.77	176.86	1,921.80	180.37	1,998.49	183.95	2,078.25	103%	122%			
United States	166.99	1,631.46	163.65	1,598.83	161.20	1,606.83	161.20	1,671.10	162.81	1,754.65	166.07	1,851.16	169.39	1,925.21	172.77	2,002.21	103%	123%			
Canada	11.70	68.08	11.47	66.72	10.61	62.05	10.61	64.53	10.61	67.11	10.79	70.64	10.98	73.29	11.17	76.03	95%	112%			
Europe	450.04	2,504.07	439.97	2,443.50	431.24	2,433.71	423.59	2,487.93	429.57	2,595.46	440.57	2,710.63	452.21	2,834.43	464.22	2,964.25	103%	118%			
Germany	72.86	423.65	70.12	407.76	61.36	360.87	60.13	368.09	60.73	382.81	62.03	398.63	63.35	415.11	64.70	432.27	89%	102%			
France	34.60	215.65	33.30	207.56	32.30	203.41	31.66	207.48	31.66	213.70	32.13	220.11	32.91	229.83	33.70	239.97	97%	111%			
UK	21.87	144.57	21.16	148.11	21.16	141.27	20.32	141.27	20.52	146.92	21.03	153.53	23.67	170.67	22.10	167.65	101%	116%			
Spain	20.96	122.41	20.49	119.66	20.70	122.05	20.28	124.49	20.49	129.47	21.03	135.47	21.58	160.43	22.15	148.32	106%	121%			
Italy	60.91	339.12	58.78	327.25	59.37	333.80	59.07	345.48	60.25	362.75	61.16	375.45	62.08	388.59	63.01	402.19	103%	119%			
Benelux	13.56	92.34	13.12	89.34	13.12	90.24	12.86	92.04	12.99	95.72	13.31	100.02	13.64	104.52	13.98	109.21	103%	118%			
Scandinavia	13.68	93.64	13.31	91.06	13.44	92.88	13.51	97.06	13.64	100.95	14.00	105.64	14.37	110.54	14.75	115.68	108%	124%			
Poland	36.16	205.00	35.53	201.41	35.89	205.44	35.17	209.55	35.17	215.84	41.13	249.23	38.26	243.92	39.91	259.30	110%	126%			
Romania	6.07	29.40	5.96	28.88	6.02	29.46	5.90	30.05	6.02	31.55	6.29	33.60	6.57	35.77	6.87	38.09	113%	130%			
Russia	17.18	105.14	16.88	103.30	16.88	103.30	16.71	106.40	16.87	110.66	17.16	114.75	18.07	119.57	17.75	123.40	103%	117%			
Turkey	90.19	391.67	91.03	395.31	90.12	413.10	88.32	421.36	90.97	446.65	94.88	474.78	98.96	504.70	103.22	536.49	114%	137%			
Other Europe	61.99	341.48	60.28	332.09	60.88	337.90	59.67	344.66	60.26	358.44	60.87	369.20	61.47	380.27	62.09	391.68	100%	115%			
Middle East	74.88	396.94	77.88	412.81	81.58	436.55	78.59	435.43	82.33	473.55	86.24	505.55	90.35	539.72	102.93	605.31	115%	127%			
Saudi Arabia	18.51	99.22	19.25	103.19	20.02	108.35	19.02	106.72	19.78	115.26	20.57	122.17	21.39	129.51	24.35	144.99	111%	123%			
UAE	10.94	56.60	11.38	58.87	11.95	62.40	11.35	61.46	11.92	66.99	12.52	71.68	13.14	76.70	15.25	87.52	114%	127%			
Israel	10.42	53.96	10.84	56.12	11.38	59.48	11.50	62.16	12.07	67.75	12.67	72.50	13.31	77.57	14.53	83.43	122%	134%			
Egypt	5.25	24.12	5.46	25.08	5.74	26.58	5.85	28.05	6.14	30.57	6.45	32.71	6.77	35.00	7.32	37.29	123%	136%			
Other ME	29.76	163.04	30.95	169.56	32.49	179.74	30.87	177.04	32.41	193.55	34.03	206.48	35.74	220.94	41.47	252.09	114%	127%			
Africa	35.05	170.71	35.84	174.41	36.57	180.23	37.46	189.91	38.75	204.92	40.08	216.00	41.47	227.68	42.90	240.01	114%	127%			
South Africa	16.21	90.29	16.45	91.65	16.45	93.48	16.78	98.15	17.28	105.52	17.80	110.79	18.33	116.33	18.88	122.15	110%	123%			
Nigeria	7.22	26.01	7.37	26.53	7.59	27.59	7.74	28.97	7.97	31.14	8.21	32.70	8.46	34.34	8.71	36.05	114%	126%			
Morocco	6.36	32.86	6.56	33.85	6.82	35.54	7.02	37.67	7.30	40.88	7.60	43.33	7.90	45.93	8.22	48.69	119%	132%			
Algeria	1.03	5.25	1.05	5.35	1.08	5.57	1.10	5.84	1.14	6.28	1.17	6.60	1.21	6.93	1.24	7.27	114%	126%			
Kenya	1.59	7.67	1.66	8.05	1.75	8.53	1.81	9.09	1.90	9.95	1.99	10.65	2.09	11.39	2.20	12.19	126%	139%			
Tanzania	0.12	1.19	0.13	1.25	0.13	1.32	0.14	1.41	0.14	1.54	0.15	1.65	0.16	1.77	0.17	1.89	126%	139%			
Other Africa	2.53	7.44	2.63	7.73	2.76	8.20	2.87	8.77	3.01	9.60	3.16	10.28	3.32	11.00	3.49	11.77	125%	138%			
Asia	3,350.72	8,486.98	3,405.84	8,632.95	3,347.64	8,515.79	3,347.33	8,716.52	3,388.12	9,049.15	3,429.68	9,266.08	3,472.02	9,489.79	3,515.18	9,720.58	102%	109%			
Greater China	3,052.29	7,090.10	3,098.08	7,196.45	3,036.11	7,052.52	3,036.11	7,193.57	3,066.48	7,409.38	3,097.14	7,557.57	3,128.11	7,708.72	3,159.39	7,862.89	101%	107%			
Japan	59.80	394.00	59.50	392.03	58.91	392.03	55.37	388.11	55.37	407.52	55.37	411.59	55.37	415.71	55.37	419.86	93%	104%			
Korea	23.55	152.70	24.14	156.52	24.14	158.08	23.77	163.61	24.01	173.43	24.25	176.90	24.49	180.44	24.74	184.05	103%	116%			
India	78.00	285.00	82.49	301.39	84.96	313.44	87.51	338.52	91.88	372.37	96.48	398.44	101.30	426.33	106.37	456.17	124%	140%			
South Asia (ex. India)	21.00	80.00	22.05	84.00	22.71	87.36	23.17	93.48	24.32	102.82	25.54	110.02	26.82	117.72	28.16	125.96	122%	138%			
Central Asia	11.40	57.98	11.97	60.88	12.21	62.70	12.69	67.09	13.20	71.79	13.73	76.10	14.28	80.66	14.85	85.50	120%	131%			
Southeast Asia	94.98	340.59	97.83	354.21	98.81	361.29	98.81	379.36	102.76	413.50	106.87	434.18	111.15	455.88	115.59	478.68	113%	127%			
Australia & New Zealand	9.70	86.62	9.80	87.48	9.80	88.36	9.89	92.77	10.09	98.34	10.29	101.29	10.50	104.33	10.71	107.46	106%	117%			
Latin America	117.20	528.34	117.96	532.43	117.89	535.61	119.87	566.04	124.32	609.77	128.95	644.71	133.75	681.67	133.75	681.67	110%	122%			
Brazil	41.16	169.67	42.19	175.60	43.03	180.87	43.68	190.82	44.99	204.18	46.34	214.39	47.73	225.11	47.73	236.36	113%	126%			
Mexico	35.58	194.56	35.58	195.05	34.16	197.98	34.67	199.60	36.05	215.57	37.50	228.51	39.00	242.22	40.56	256.75	105%	117%			
Argentina	6.83	41.99	6.49	39.79	6.62	40.98	6.82	43.85	7.09	47.36	7.38	50.20	7.67	53.21	7.98	56.40	108%	120%			
Colombia	9.59	34.27	9.45	33.67	9.54	34.34	9.59	35.89	10.07	39.12	10.57	41.86	11.10	44.79	11.66	47.92	110%	122%			
Chile	2.39	14.19	2.40	14.23	2.42	14.51	2.51	15.60	2.61	16.85	2.71	17.86	2.82	18.93	2.93	20.07	114%	126%			
Peru	2.55	13.86	2.54	13.76	2.56	14.03	2.56	14.59	2.66	15.76	2.77	16.71	2.88	17.63	3.00	18.77	109%	121%			
Ecuador	3.61	9.25	3.62	9.27	3.66	9.46	3.75	10.07	3.90	10.88	4.06	11.53	4.22	12.22	4.39	12.95	113%	125%			
Uruguay	0.41	2.56	0.42	2.57	0.43	2.57	0.43	2.80	0.45	3.02	0.47	3.20	0.48	3.39	0.50	3.60	113%	125%			
Central America	6.55	21.50	6.62	21.66	6.85	22.63	6.85	23.53	7.13	25.41	7.41	26.94	7.71	28.55	8.02	30.27	113%	125%			
Other Latin Am	8.53	26.50	8.66	26.83	8.97	28.04	9.01	29.29	9.37	31.63	9.75	33.53	10.14	35.54	10.54	37.67	114%	127%			

Provision of data: Orr & Boss Consulting Incorporated(2026年7月31日版)

North America	United States and Canada
Europe	Germany, France, UK, Spain, Italy, Benelux, Scandinavia, Poland, Romania, Russia, Turkey, Other Europe
ME	Saudi Arabia, UAE, Israel, Egypt, Other ME
Africa	South Africa, Nigeria, Morocco, Algeria, Kenya, Tanzania, Other Africa
Latin America	Brazil, Mexico, Argentina, Colombia, Chile, Peru, Ecuador, Uruguay, Central America, Other Latin America
Asia	Greater China(Mainland China, Taiwan, Hong Kong, and Macau), Japan, Korea(South&North), India South Asia(ex India), Central Asia, Southeast Asia, Australia & New Zealand

表紙解説

表紙絵画：小島輝夫

表紙写真

「新緑の中の流れ」

5月中旬頃の、ここ安曇野は新緑がきれいな季節です。穂高町にある「大王ワサビ農園」は日本ペイントの「穂高山荘」に泊まった時に立ち寄りました。新緑が目には鮮やかで、ワサビ田とともに川の流れと水車小屋があるのがとても印象的でした。

パウダーコーティング

ISSN 1346-6739

2026年9月15日 Vol.26 No.3

発行所：日本パウダーコーティング協同組合(JAPCA)

東京都港区芝5-31-16 YCCビル9F

TEL: 03-3451-8555 FAX: 03-3451-9155

URL: <http://www.powder-coating.or.jp>

制作：パウダーコーティング誌 制作部

©2026 日本パウダーコーティング協同組合

本誌に記載されたすべての記事内容について、日本パウダーコーティング協同組合の許可なく転載・複写することを禁じる。

パウダーコーティング ISSN 1346-6739
二〇二六年九月十五日 Vol.26 No.3
定価 二〇〇〇円

発行：日本パウダーコーティング協同組合 (JAPCA)
東京都港区芝五・三・一六 YCCビル
制作：パウダーコーティング誌制作部